

「指導者になってよかったこと」

私は、指導者になって20年余り、気が付けば来年で70才になります。

最初は、入隊して5年間ビーバー隊のリーダーをしました。

それも入隊して1年間経っただけで、前隊長に頼まれて、隊長になりました。隊長をするためにウッドバッジ研修所で勉強をしましたが、ほとんどボーイスカウトについて理解することはできませんでした。でも、私には若くて素晴らしい副長が3人と前隊長が、何も知らない私に付いて親切に指導をしてくれました。

前隊長は、ビーバー隊の野外活動はどういう計画を立てて実施すればいいかを教えてくれました。熟練した副長たちは、スカウトたちを指導するノウハウを教えてくれました。年の違うオッサンにもズバズバ注意してくれました。このチームワークはよかったです。

今まで経験していないボーイスカウトの世界に入って、若者やいろいろな人生経験の有る人々、たくさんスカウトのお母さん方などと知り合えて、いろいろ勉強させていただくことで、何とか隊長を務めることができました。教えることよりも教えられたことが多い経験でした。

何と言っても、可愛いスカウトたちが、一番多い時で15人もいました。私は、サンドイッチ、シチュー、プリンの3つのグループを作りました。これで、てんてこ舞いをしましたが楽しい活動もできたことが私の指導者としての宝物になりました。

自分の子供が出来るまで子供が苦手だった私が、15人もの子供から、「隊長、隊長」と付きまといられるのが、隊長冥利とも言えるすごく楽しい思い出です。

その後、体を悪くして、団委員で行事委員になり、地区行事に参加することになりました。具体的には、大阪マラソンの警備や甲子園の選抜高校野球の奉仕です。この活動では、他の団のリーダーや高校生年代の若者たちと知り合いになることができました。ボーイスカウトで活動範囲が広がり、初めて出会った知らない人でもすぐに友だちになれるということを体験することができました。誰とでもすぐ打ち解けられるというのは、ボーイスカウトだけの特有な世界で、仲間がいっぱいいることを実感できます。

5年前には、団委員長に誘われて、ビーバー隊の活動を支援することになり、久々に孫のような年代のスカウトたちと3年間活動することになりました。スカウトの人数は減少していますが、保護者も含めて以前より濃い付き合いができました。

そして、この間のバザーのとき、嬉しい事が有りました。カブ隊に上進したスカウトが、「私誰かわかる」と言いながら、近づいて来てくれました。こんなうれしい気持ちになれるんですね。ビーバー隊の支援をさせていただいてよかったです。

ボーイスカウトに参加したので、以上のような、なかなか経験出来ないことを経験することができました。これからも、スカウト活動をしている限り、新しい経験が出来ると思うと少しわくわくします。残りの人生も楽しめます。

まだまだ、団委員は止められません。よろしくお願いします。